

- 13:1 見よ。
私の目はこれをことごとく見た。
私の耳はこれを聞いて悟った。
- 13:2 あなたがたの知っていることは
私も知っている。
私はあなたがたに劣っていない。
- 13:3 だが、私は全能者に語りかけ、
神と論じ合ってみたい。
- 13:4 しかし、あなたがたは
偽りをでっちあげる者、
あなたがたはみな、能なしの医者だ。
- 13:5 ああ、あなたがたが全く黙っていたら、
それがあなたがたの知恵であつたらうに。
- 13:6 さあ、私の論ずるところを聞き、
私のくちびるの訴えに耳を貸せ。
- 13:7 あなたがたは神の代わりに、
なんと、不正を言うのか。
神の代わりに、欺きを語るのか。
- 13:8 神の顔を、あなたがたは
立てるつもりなのか。
神の代わりに言い争うのか。
- 13:9 神があなたがたを調べても、大丈夫か。
あなたがたは、人が人を欺くように、
神を欺こうとするのか。
- 13:10 もし、あなたがたが隠れて
自分の顔を立てようとするなら、
神は必ずあなたがたを責める。
- 13:11 神の威厳は
あなたがたを震え上がらせないだろうか。
その恐れがあなたがたを
襲わないだろうか。
- 13:12 あなたがたの格言は灰のことわざだ。
あなたがたの盾は粘土の盾だ。

- 13:13 黙れ。私にかかわり合うな。
この私が話そう。
何が私にふりかかっててもかまわない。
- 13:14 それゆえ、私は自分の肉を
自分の歯にのせ、
私のいのちを私の手に置こう。
- 13:15 見よ。神が私を殺しても、
私は神を待ち望み、
なおも、私の道を神の前に主張しよう。
- 13:16 神もまた、私の救いと
なってくれる。
神を敬わない者は、
神の前に出ることができないからだ。
- 13:17 あなたがたは私の言い分をよく聞け。
私の述べることを
あなたがたの耳に入れよ。
- 13:18 今、私は訴えを並べたてる。
私が義とされることを私は知っている。
- 13:19 私と論争する者はいったいだれだ。
もしあれば、
そのとき、私は黙って息絶えよう。

実情をよく知りもしないで、ただ神の報いという観点から責める友人たちに対して、とうとうヨブは「能なしの医者だ」「大丈夫か」とまで言い、反論します。

もはや苦しさの中で友人を頼ることはできません。すべてが最悪の状況に思えます。ところがそこでヨブの目は神に向かいます。これが試練の目的でもあります。私たちは最後には神を求めるのです。ならば今から神を求めてみましょう。最悪ならば、神に向きましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

